

「若狭湾 海の自然学校 ~矢代湾で生きる~」

1 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
16	43	16	16 (福井5・京都3・大阪2・愛知2・富山1・奈良1・千葉1・滋賀1)

2 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭湾の自然の中で生活することを通して、自然の素晴らしさを味わう。
- ・生活するなかで出てくる様々な課題の解決を通して、状況を受け入れる力を付ける。
- ・自然、仲間と関わり合いながら生活することを通して、自己を理解する。

◆期日・期間

令和元年8月3日（土）～8月10日（土）<7泊8日>

◆後援・協力団体

後援：福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

協力団体：安藤スポーツ・食文化振興財団

2019年度自然体験活動支援事業

「第18回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」にて

福井県キャンプ協会

連携内容：プログラムの普及啓発を目指した指導者の研鑽協力

◆参加者分析

応募者43名の内訳は以下のとおり。

		福井	京都	大阪	愛知	富山	奈良	千葉	兵庫	神奈川	岐阜	滋賀	合計
過去の 参加経験	なし	9	9	3	7	2	1	1	1	1	4	5	43
あり	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3	10

- ・参加募集16名に対して、幅広い43名の参加希望があった。昨年度までの20名に対して、約2.2倍数となった。43名の内、10名は過去に自然学校に参加した経験をもつリピーターで、5名は過去に兄、姉が自然学校に参加した兄弟姉妹であった。その他、28名が完全新規であった。昨年度からの応募増加について、過去に本事業に携わったスタッフの努力によるものであると考えられる。
- ・重点的に広報した地元福井からの応募者が9名となった。
- ・今年度も募集要項（チラシ）に「初参加の方を優先します」という文言を付け加え、より多くの子供たちに自然体験をさせたいという意思をアピールした。43名のうち、10名過去に自然学校に参加した経験がある応募者がいたが、応募者多数ということで抽選から除外した。
- ・保護者の応募動機を見ると「兄、姉が長期のキャンプに参加していて、下の子にも参加させたい」（5人）。「他の保護者から紹介、参加を進められて」（1人）。「私自身過去に若狭湾の長期キャンプに参加して、子どもにも参加させたい」（1人）と、若狭湾の長期キャンプに強い期待感を感じさせるものであった。また、「大自然の中で、普段出来ない経験をして成長してほしい」（16人）と全保護者が本事業に期待を寄せていることが分かった。また、参加者からの言葉では、海で思いっきり遊びたいという活動的な記述だけではなく、「両親がいなくても出来る！」ところを見せられるようになりたい。「自分で、何でも出来るようになりたい。」「自然の中で活動するうえでの知識を増やしたい。」など、逞しくなる自分をイメージする記述がたくさん見られた。また、「自分を逞しくするために、保護者に申し込まれた。」（2人）いた。この2名は、小学生男子1名と中学生男子1名であり、それぞれ、「キャンプは楽しいのか。」「食事は自分で作ることができるのか。」という不安を抱えて、長期キャンプに臨んだ。

看板事業

◆企画のポイント

おおまかな日程は以下のとおり。

日程	3日（土）		4日（日）		5日（月）		6日（火）		7日（水）		8日（木）		9日（金）		10日（土）			
	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	午前	午後	夜	
おもな活動内容	開校式 アイスブレイク	テント張り練習など	野外炊事	スノーケリング・シーカ基語ツック	ロープワーク講座	スノーケリング（大瀬氏による指導）	（大瀬氏による指導）	大浜でテント泊							矢代湾を旅する3泊4日	キャンプファイヤー	ふりかえり	閉校式

- ・自然と向き合いながら“生きる”（食べる・寝る・遊ぶ）ことを軸とし、前半で“身に付いた”ことを、後半で“使いこなす”という経験ができるよう、活動内容を組み立てた。
- ・天候や海の状況に合わせて活動できるよう、宿泊場所の候補として3つの無人浜を準備した。また、様々な行動パターンに対応できるよう、時間配分にゆとりをもたせた。
- ・昨年度に引き続き、実施2週間前に事前説明会を行い、保護者の方にも本事業のねらいや8日間の予定などを知っていただき、安心して本番に臨めるように準備を進めた。

◆運営のポイント

- ・「自然の状況に人間が行動を合わせる」という考え方に基づき、置かれた環境の中でできることを精一杯楽しむという発想を大切にした。
- ・無人浜での過ごし方を各自で選択できるようにし、自分に合った活動を自分のペースで取り組むことの心地よさを味わいながら、主体的に行動することの楽しさとそれに伴う責任について、活動を通して学べるようにした。
- ・スノーケリングや釣りだけでなく、スケッチや観察など、子供たちの様々な興味関心に応じて幅広い活動内容に対応できるよう、物品等の準備をした。
- ・自然の中で生きる（食べる・寝る・遊ぶ）ことを通して、仲間とのつながりや自分自身のありのままの姿に気づき、よりよく生きようとする意識の高まりを見守った。また、自然に対する気づきも毎日のふりかえりで想起し、自然に対する思いや考え方（自然観）を大切にした。
- ・自分の考え方や思いと自分の言葉で語れるようになるための手段として、「語り場」を毎日行った。「語り場」のスタートは、スタッフやボランティアの語りから始まり、各行動班で、テーマに沿った内容で語るトレーニングを行った。最終日には、堂々と「私の夢作文」を書けるようにコミュニケーション能力を高める活動を取り入れた。

◆安全管理のポイント

- ・活動してよい範囲を決めたり、海に入る時はジャケットの着用を義務付けたり、安全に活動するためのルールを決め、それがどれだけ大切かを常に理解させるよう活動を進めた。
- ・職員やボランティアによる子供たちの監視は、浜から・海上から・海中からと、その活動の様子が常に把握できるような体制で行った。
- ・疲れた時は休むということも活動の選択肢に入れ、子供たちが各自の体調や天候・海の状況に合わせて、無理をせず活動できるよう配慮した。
- ・熱中症対策として、いつでも冷えた水分が摂れるようにジャグを準備したり、塩分を含むもの（塩あめ、塩ようかんなど）を捕食として子供たちやボランティアに配付したりした。食事メニューにも、みそ汁を多く取り入れるなどの工夫をした。

3 アンケート結果

（1）アンケート

質問内容	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか。	69%	31%	0%	0%
この事業の活動内容はどうでしたか。	88%	12%	0	0
事業全体の進め方はどうでしたか。	56%	38%	6%	0
自然の家のスタッフはどうでしたか。	88%	13%	0	0

看板事業

ボランティアのみなさんはどうでしたか。	63%	25%	12%	0
	4満足	3やや満足	2やや不満	1不満

※「自然学校をどれくらいの期間でしてほしいですか?」の質問に対し、もっと長く(2週間くらい)が31%、もう少し長く(10日間くらい)が38%、これくらい(1週間くらい)が13%、もっと短くが18%であった。

(2) 参加者の夢作文より抜粋

- ・私の夢の1つ目は、熊本県の阿蘇にある、阿蘇カドリードミニオンで働くこと。2つ目の夢は、命に期限がある、犬や猫を救うためにボランティア活動をしたいです。
(中1 女)
- ・私の夢は、サッカーに関する仕事に就くことです。もう一つ夢があります。それは、鉄道会社のJRに入ることです。
(中1 男)
- ・僕の夢は、映画監督になることです。
(小5 男)
- ・私の夢は、プロ野球選手です。
(小5 男)
- ・私の夢は3つあります。1つ目は、看護師です。2つ目は、パティシエです。3つ目は、king&princeに会うことです。
(小6 女)
- ・私の夢は2つあります。1つ目は、プロのカヌー選手で、2つ目は、学校の先生です。
(小5 男)
- ・僕の夢は、保育士になることです。
(小6 男)
- ・私の夢は、キャンプに関わることをしてみたいです。理由は、今回のキャンプで自然と関わることが凄い楽しいことだと分かったからです。
(小5 女)
- ・私の夢は、卓球のコーチになることです。卓球と人に教えることが大好きだからです。
(中2 男)

4 成果と課題

(1) 成果

昨年度の課題として、子供たちの変容がどの程度かを測定する手法や、表現方法については追究の余地があった。機構の教育事業方針では「参加者の感想・行動など個人の変容を把握する質的な評価を実施」とあり、今回は、行動班と班付ボランティアと語り合う「語り場」を設定し、毎日テーマを決めて語る中で自分を客観的に話すトレーニングとなった。また毎日の振り返りを記載させ、ボランティアスタッフが朱書きをするなど、日々の意識の変容を捉えた。自分のことを仲間の前で語ると活動は、「主体的・対話的で深い学び」につながると考えられると共に、自分を客観的に捉えることができると考えられる。その成果物として「私の夢作文」を全員書き上げることにつながった。

資料①は、本事業の設計図である。資料②は、7月21日に海の自然学校事前説明会実施した際に、参加者本人に書かせたアンケートである。多くの参加者が、思いを伝えたり、書き綴ることが苦手であったり、慣れていない様子が見て取れた。本事業中に、繰り返し、書くことと話すことを主体的に取り組むことで、資料③(8月3日) 資料④(8月10日) のように変化が表れていることが分かる。

- ・下線文a「今日のわたしについて」声をかけてくれたりして本当に嬉しかったです。
- ・下線文b「今日のなかまについて」仲のよさも深まりました。
- ・下線文c「私の夢」自分は、ずっとなんでもできると思いました。このキャンプで気づいたことは、二人でやれば二倍速くなる三人でやれば三倍早くなる。たとえば自分がテントをはるよりも二人でやれば早くなると思っていませんでした。

看板事業

資料①から資料③の抽出生は同一人物であり、参加者の中でもとりわけ問題行動が多い児童であったが、事業中に、仲間を信頼し、自分の思いをまとめ、発表できる力が身に付き始めたと考えられる。最終日の夢作文では、しっかりと自分の思いと、将来の夢を述べることができている。

個人の変容を把握する質的資料①～③

【資料①】

2019年度 若狭湾 海の自然学校 ～矢代湾で生きる～

(海の自然学校のねらい)

- ・ 若狭湾の自然の中で生活することを通して、自然の素晴らしさを味わう。
- ・ 生活するなかで出てくる様々な課題の解決を通して、状況を受け入れる力を付ける。
- ・ 自然、仲間と関わり合いながら生活することを通して、自己を理解する。

キーワード つながる私
自然体験活動を通して、あらたに見つけた自分と、若狭の大自然と、寝食を共にする仲間とつながる私。

つながりを発見するために行う活動

- ・ もくもくふりかえり作文時間の設定
- ・ 明かりを囲んでの「語り場」を設定
- ・ 同一浜の連泊体験を設定
- ・ 自給自足の体験環境を設定
- ・ 天候、海象状況に応じて活動場所を柔軟に変更することを許容する。

7日間の子ども・ボラの成長イメージ

自分で出来ること！	子ども	小→大	ボラ
↓			↓
			子どもとの関わり！

令和元年
7月21日(日)
事前説明会
出会いと・決意！！

令和元年
8月3日(土)～8月10日(土)
7泊8日 若狭湾 海の自然学校
つながりを発見する活動へ船出！

令和元年
12月21日(土)～22日(日)に
「海の自然学校 冬編」
再会・そして別れと決意へ！！

(担当者の思い)

現在の日本の若者・子どもたちの今日的課題として、他者への思いやりの心や迷惑をかけないという気持ち、生命尊重・人権尊重の心、正義感や遵法精神の低下や、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されている。その一方で、柔軟で豊かな感性や国際性を備え、ボランティア活動への積極的な参加や社会貢献への高い意欲をもつ者も多く見受けられる。7泊8日の自然学校の参加者諸君、ボランティアスタッフには、自然体験活動を通して、あらたな自分・人・こと・物を発見し、自分の成長に繋げてほしい。成功したこと失敗したこと、感じたこと感動したこと自分の言葉で語ることができ、まわりとの繋がりを感じて欲しい。活動の最後には、自分の夢をおおいに語れるような人になって欲しいと願う。

The diagram consists of four large circles arranged in a diamond shape. The top circle is red and labeled '自分'. The bottom-left circle is pink and labeled '私'. The bottom-right circle is orange and labeled '仲間'. The bottom center circle is green and labeled '自然'. The circles are interconnected by yellow lines forming a diamond shape.

The timeline is represented by three large rounded rectangles arranged horizontally. The first rectangle on the left is light blue and contains the text '令和元年 7月21日(日) 事前説明会 出会いと・決意！！'. The middle rectangle is light blue and contains '令和元年 8月3日(土)～8月10日(土) 7泊8日 若狭湾 海の自然学校 つながりを発見する活動へ船出！'. The third rectangle on the right is light blue and contains '令和元年 12月21日(土)～22日(日)に 「海の自然学校 冬編」 再会・そして別れと決意へ！！'. Each rectangle has a small pink circle with the text '私' (Me) at the bottom left.

TOBEE

⑥ 参加者用事前アンケート

「海の自然学校 ～矢代湾で生きる～」について、今後、数回にわたりアンケートの記入をお願いすることになりますが、ご協力をお願いします。

参加者氏名（記入者）

以下の質問に対して、自由記述でお答えください。必ず本人が記入してください。

- ※ 素直な気持ちで、正直にお答えください。
- ※ 実体的にお願いします。できるだけたくさん書いてください。
- ※ かしきょう書きでもかまいません。

① 「海の自然学校 ～矢代湾で生きる～」に申し込んだ理由

当社の取り扱い商品を申し込んだ。

采レ

1

② 「海の自然学校 ～矢代灘で生きる～」に期待すること

11- ケリソグ・キャンプ

② 日本の自然環境 - 伝統産業生産の中心に深刻な不景気に陥る二七

海の自然学者

ふりかえり 8月 3日(土) 氏名 天気(晴^ハ/雨^レ)
9時15分

★ 今日一日の生活を思い出し、心りかえろう。気づいたこと、感じたことなど、すべて書きましょう。箇条書きでもいいですよ。

① 今日の「わたし」について。

初めての友達と仲よくできるか最初は不安でしたけれど、声をかけてくれたりして本当にうれしかったです。 下線文 a

② 今日の「なかま」について。

最初はみんなが話しかけていました。
うなづいたけれど今はまはやソア
ネームでよぶよぶになり仲のよさも薄れ
きました。

◎ 今日のIT技術と標準

とてモトがあつく宿泊室に来品のクラ
クほいあつさじた死にそうじた。

【資料②】



下線文 c

【資料④】

本事業の目標や展開について、職員や参加者クリアに提示することを担当者として大切にした。資料⑤の通り、8日間の活動や目標、語り場のテーマなど見える化して、見通しを持って活動できるように配慮した。参加者のしおりには、目標を「次回予告」として自分の未来の様子をイメージできるように提示をした。職員や参加者が安心して活動できることは何より大切である。参加者の長期の見通しが付けられただけではなく、職員間の連携や事業に対しての理解が進んだ結果、よりよい事業になったと考えられる。

【資料⑤】



若狭湾 海の自然学校 2019 8/2 第5回ブチ会議

(海の自然学校のねらい)

- ・若狭湾の自然の中で生活することを通して、自然の素晴らしさを味わう。
- ・生活するなどで出てくる様々な課題の解決を通して、状況を受け入れる力を付ける。
- ・自然、仲間と一緒に暮らしながら生活することを通して、自己を理解する。

キーワード つながる私
自然体験活動を通して、あらたに見つけた自分と、若狭の大自然と、寝食を共にする仲間とつながる私。

コンセプト

「たくましくしなやかな心を育てる」

◎折れない心 ◎自然に合わせて生活する ◎共感と折り合い

☆出来なかつたことができた=自身 ☆こんな私=あたらしい自分との出会い



	午前	午後	夜	風呂	宿泊場所	次回予告！！（目標）	語り場	語り場テーマ
	食事	活動	食事	活動	食事	活動		
2019/8/3			開校式 入室		食堂	テント張り（のぼり）語り場	大浴場	出会いに感謝！！
			研3	18:10~19:00	車庫前	17:00~17:40		
2019/8/4	食堂	炊事準備	野外炊事（別紙参照）	SK・SNK（かずきんぐ）	食堂	ロープブーク（のぶご）語り場	自然の家（1号棟） 5日シンド泊	仲間の良さを発見！！
	8:15~9:00	岩の沢	岩の沢	大浜	18:10~19:00	オリ室		
2019/8/5	食堂 ※大瀬/山口入り	SK※大瀬/山口	外注弁当	SNK※大瀬/山口 テント準備	食堂	荷造り（部屋）語り場 大浜テント泊	大浴場	海に出る準備完了！！
	7:30~8:15	大浜	つどいの広場	大浜	18:10~19:00	大浜		
2019/8/6	おにぎり 黙祷（平和学習）	SK：無人浜へ移動	行動食（別紙参照）	SNK/BF/SKなど	野外炊事（別紙参照）	語り場 テント泊	なし	無人浜に移動完了！！
	船庫前	大浜	—	—	—	—		
2019/8/7	野外炊事（別紙参照）	SK：無人浜へ移動	行動食（別紙参照）	SNK/BF/SKなど	野外炊事（別紙参照）	語り場 テント泊	なし	思いっきり遊び私！！
	—	—	—	—	—	—		
2019/8/8	野外炊事（別紙参照）	SNK/BF/SKなど	行動食（別紙参照）	SNK/BF/SKなど	野外炊事（別紙参照）	語り場 テント泊	なし	出来ることが増えた！！
	—	—	—	—	—	—		
2019/8/9	野外炊事（別紙参照）	SK：自然の家へ移動 黙祷（平和学習）	そらめん（船庫前）	後片付け 講師別れ会	食堂	CF（のぶご/てつご/ヨーク）語り場	大浴場 自然の家	語り場で夢を語ろう！！
	—	大浜	つどいの広場	研1	18:10~19:00	岩の沢		
2019/8/10	食堂	語り場 ふりかえり教策	注文弁当	開校式 送迎バス			帰宅	つながる私発見！！
	8:15~9:00	ハイキングコース・大浜等	つどいの広場	研3				

看板事業

- 今年度は、8日間天候が悪化することもなく、予定通り活動することができた。次年度以降もこの状況が続くとは考えにくいため、弾力的な対応ができるように、「宮の浜」「かたぼこ浜」「大浜」「岩の沢」「夕日の広場」など状況に応じて活動できる場所を確保する必要がある。また、本事業の計画が3年を迎えるリニューアルの時期を迎えた。次年度以降、若狭湾の看板事業をどのように展開については、より多くの職員で検討していく必要があると考える。
- 多くの応募者に鑑み、次年度以降の自然学校の定員を増やすことも検討したい。以前は、カヤックでの長距離移動をメインとしていたため、外海を安全に航行できる上限として定員を16名と設定した。昨年からの無人浜へ移動して遊ぶことをメインとしている自然学校であれば、20名前後でも安全の確保が可能であろうと考える。ただし、シーカヤックの老朽化により更新も必要であろう。また、台風被害によりシングルのシーカヤックも現状不足している。さらには、同日の教育支援も考えると、環境整備は急務である。
- 事業後の職員アンケートによる記載からは、「業務分担については、担当となっている職員も、利用団体の直接指導や給与計算などによりすべての行程に携われないことは今後も続いていくだろう。また、船の操船の為に浜泊ができないなど、現状の職員数では浜泊できる人数が限られてしまい、限られた職員のみに過大な負担がかかってしまった。」

「今回浜泊すべてに固定の2人が付いてみて、かなりしんどいことが分かった。今の形で役割分担的に浜泊担当者が他にいなかったのであれば、関わる職員を多くする他ないのではないか。それが少しずつ関わる形でも良いと思う。(子ども達と行動を共にしてできる一体感も大事にしたいが、それ以上に安全管理上、職員の体力・気力・判断力等に余裕が必要だと感じる。)」

運営については、「担当2名が、浜泊にすべてついていたのは体力的にかなりしんどかったのではないか。宿泊対応を交代にし、主担当にしても、帰所後語り場は車で戻り、終わり次第帰る。朝は送りで参加できる限り負担を減らしてはどうか。」

「毎年ボランティアの欠席が出て、欠席者の帽子を職員が買い取っている状況である。来年度からは、事前に欠席の場合でも帽子は買い取ってもらうが、それでも良いか事前に同意を取り、上記のように対応する方が良いと思う。」ボランティアに関しては、「物の管理・片付けなどを含め、もう少し自主的に子ども達に関わってもらいたかった。」上記のような意見をいただいた。

本事業は、全日程を職員、ボランティアスタッフが帶同した。長期キャンプだからとのご意見もあるようだが、真夏の炎天下の中での活動は、体力的にも非常に厳しいのは事実。運営の見直しも今後必要になると考えている。

5 活動の様子

(若狭湾海の自然学校事前説明会) 令和元年7月21日(日) 13:30~16:00



看板事業

(若狭湾海の自然学校 1日目～3日目) 令和元年8月3日(土)～



看板事業

(若狭湾海の自然学校 4 ~ 6 日目)



(若狭湾海の自然学校 7・8 日目) ~ 令和元年 8 月 10 日 (土)

